

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 児童生徒の発達段階を的確に把握し、自立に向けて可能性を伸ばすことができるよう、合理的配慮を取り入れながら個に応じた教育活動を行う。
- 2 児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育及び道徳心・社会性の育成を図る。
- 3 健康で安全な生活習慣の向上を図り、安全安心できれいな学校づくりを進める。

2 中期的目標

- 1 地域・保護者の信頼に応えた「安全で安心な学校」の創造
 1. 安全で安心な学校となるように防災、防犯の取組みを推進する。
 2. 人権が尊重され誰もが過ごしやすい学校づくりを進める。
 3. 地域との連携と支援を充実する。学校周辺施設と連携した校外活動（清掃）の内容を拡充し、福祉施設や企業での清掃活動を進める。[R 2：一部周辺地域清掃、R 3：周辺清掃の地域拡大、R 4：施設の庭などの清掃] センターの機能を発揮し地域小中学校、高等学校などからのR 7支援要請 320件に応じていく。[R 2：280件、R 3：290件、R 4：300件]
- 2 児童生徒の健康を守り豊かな学びを育てる学校生活の創造
 1. ICTを活用した授業の進め方を研究し授業を活性化し、保護者によるアンケートのR 7満足度を70%に向上する。[R 2：60%、R 3：61%、R 4：62%]
 2. キャリア教育を充実し、高等部卒業後の職業的・社会的自立に向けた支援体制を進める。新たに中学部からの職業体験実習に取り組む。[R 4：5件]
 3. 食の安全を守り、アレルギー対策や医療的ケア体制の充実を図りR 7満足度90%をめざす。[R 2：85%、R 3：86%、R 4：87%]
 4. 新校舎建設に向けて先進校の情報を収集し、完成時のイメージを想像して移転作業に必要な準備を始める。
- 3 働き方改革の観点から教職員の健康管理に取り組む
 1. 各業務の見直しを行い、教職員の業務負担軽減を図る。
 2. 健康を維持し、働くことの楽しさや充実感を感じられる職場環境を構築する。教員アンケートのR 7満足度96%に向上をめざす。[R 4：91%]

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見															
<p>1. 回収率 (12月15日 現在) 【保護者】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学部</th> <th>中学部</th> <th>高等部</th> <th>全体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提出数/在籍数</td> <td>111/119</td> <td>83/109</td> <td>127/169</td> <td>321/397</td> </tr> <tr> <td>回収率</td> <td>93.3%</td> <td>76.1%</td> <td>75.1%</td> <td>80.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 考察</p> <p>○保護者回収率は、昨年度より3.0%減少した。教職員は、昨年度オンライン型に変更したことによる不具合で回収率が下がったが、今年度は不具合の修正を行い、100%の回収となった。</p> <p>○「肯定的な評価」の高かった項目 (A+B=90%以上の項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日直や給食当番等の係活動に、継続して取り組む機会を設けている。(96%) ・学校は、「個別の教育支援計画」の意義や内容について、説明をしている。(96%) ・生野支援学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。(95%) ・学習の内容・学校生活の様子を、懇談や学級(学年・学部)通信、連絡帳等によって知ることができている。(95%) 他10項目 <p>○「否定的な評価」の高かった項目 (C+D=10%以上の項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設・設備は、学習環境面で整備されている。(11%) ・学校は、個人情報の取り扱いに配慮している。(10%) <p>○「わからない」の回答率が高かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート等でいじめ(疑いを含む)に対する調査を行い、早期解決できる体制が整っている。(23%) ・授業をはじめ、学校でICT機器(大型モニター、タブレット、パソコン等)を活用する機会が設けられている。(20%) <p>≪アンケート30項目のうち、ほぼ全ての項目で評価の向上が見られた。「否定的な評価」が高かった項目について、学校の老朽化や教室不足に対してのご意見が多かったが、昨年度に比べて評価は向上しているので、適切な整備を行って理解を得られるよう努める。また、個人情報の取り扱いについては、記録媒体の紛失を受けた結果であると考えられる。研修や情報管理環境の見直しを行い、再発防止に向けて、教職員の情報管理意識の向上とセキュリティの強化を行った。「わからない」との回答率が高かった項目について、いじめに関する項目は、学校ホームページに掲載している「いじめ防止基本方針」を見て理解してもらえるよう、アンケート実施時に案内することで改善を図る。ICT機器についての項目は、通信や参観を通して活用している様子を伝えてきたことで、昨年度に比べて減少しており、肯定的評価も10%以上高くなっている。≫</p>		小学部	中学部	高等部	全体	提出数/在籍数	111/119	83/109	127/169	321/397	回収率	93.3%	76.1%	75.1%	80.9%	<p>令和5年度テーマ「新校舎移転を踏まえた学校経営計画の円滑な推進～地域との連携を踏まえて～」</p> <p>【委員】大学教授、PTA会長、前PTA会長、近隣福祉施設長、地域住民代表等</p> <p>【日程】</p> <p>第1回 令和5年6月19日(月)10:00～12:00</p> <p>第2回 令和5年11月20日(月)10:00～12:00</p> <p>第3回 令和6年2月26日(月)10:00～12:00(予定)</p> <p>【各回の内容】 ⇒は委員からいただいたご意見の主なもの</p> <p>(1) 令和5年度の運営体制の紹介。令和5年度学校経営計画(案)のめざす学校像と中期目標の承認。自立活動の取組みと各学部での進路支援に関する取組み紹介。</p> <p>⇒教職員の障がい理解や支援力向上に向けた取組みを積極的にすすめてほしい。</p> <p>⇒児童生徒の実態に応じてキャリア教育の観点に基づいた進路学習をすすめてほしい。</p> <p>⇒保護者への進路支援は進路選択が多様化している現在において、適切に行えるようにしてほしい。また、各関係機関との連携も深めてほしい。</p> <p>(2) 「支援学校と地域との連携や交流」と「新校舎設立に向けた挑戦」の紹介。地域の中にある支援学校として、保育園・小・中・高等学校やその他関係機関と連携「協働」を意識しながらすすめる。</p> <p>⇒交流学习をするにあたり、互いが学びあえるような内容を意識してほしい。</p> <p>⇒新校舎設立に関しては、児童生徒の声も反映させ、人や場所で区切らず、繋がりやカリキュラムで作るといった学校づくりをすすめてほしい。</p> <p>⇒地域とのつながりを意識した学校づくりを一層積極的にすすめてほしい。</p> <p>(3) 【令和5年度学校教育自己診断結果の報告】</p> <p>「情報管理」については、情報機器の管理体制の見直しや教職員向けの研修に取り組んでいく。「施設設備」については、安心・安全の観点で環境整備に取り組んでいく。</p> <p>【令和6年度 学校経営計画及び学校評価】</p> <p>⇒この計画に基づいて実践して欲しい。新校舎移転に向けて、地域の方々も関心があがるので、引き続き地域との連携が重要である。</p> <p>【提言事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 防災は「減災」の観点も取り入れながら、学校全体ですすめてほしい。 ② ICTの活用と管理(セキュリティー)を同時にすすめてほしい。 ③ 働き方について、教職員の「働きがい」も含め、一緒に話し合いながらすすめてほしい。
	小学部	中学部	高等部	全体												
提出数/在籍数	111/119	83/109	127/169	321/397												
回収率	93.3%	76.1%	75.1%	80.9%												

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1. 地域・保護者の信頼に応えた「安全で安心な学校」の創造	1. 安全で安心な学校となるように防災、防犯、感染防止の取組みを推進する。	様々な災害や犯罪に備えるための学校体制を充実するとともに、各種マニュアルを整備し実効性のある緊急時シミュレーションを実施する。PTA、地域とも連携し、校内の危険を防止するための対策を進める。	① 緊急時下校の児童生徒引継ぎ訓練や、警察署職員による防犯訓練を教職員に行う。各1回[各1回] ② 教職員の防災意識を高めるため、外部講師を招いて防災研修を実施する。1回[0回] ③ 児童生徒、教職員、PTAが参加する防災学習や避難訓練を、「いくの防災デー」として実施する。1回[1回] ④ 保護者への防災意識を高め、個人備蓄品の整備を進める。防災個人備蓄品の提出率を向上する。提出率70%[60%] ⑤ 緊急一斉メールの加入率を、教職員100%、保護者95%とする。 [R4：教職員99%、保護者94%]	① 昨年度(7月実施)に比べて、早い時期(5月)に実施済(◎) ② 外部講師との日程調整がつかず未実施。次年度に計画(△) ③ 今年度は9月8日に実施済(○) ④ 1学期に調査の結果、全校での提出率は78.6%(◎) ⑤ 保護者81.7% 教職員89.4%(△) コロナ禍による緊急時連絡ツールの必要性が薄れてきたことによると思われる。登録の呼びかけを定期的に行うことで加入率を上げる。
	2. 人権が尊重され誰もが過ごしやすい学校づくりを進める。	(1) いじめや人権侵害事象の起こらない学校づくりを進めていく。 ① 人権尊重の教職員研修を実施し教職員の理解を深める。 ② 各種ハラスメントについて理解を深め、相談体制を充実して各事象の起こらない安全な学校にしていく。	① L G B T Q、障がい理解、同和教育に関する研修を各1回実施する。 ② ハラスメントをテーマにした研修を開催し、教職員の理解を深める1回[1回]	① 6、7、10月に障がい理解、7月に同和教育、12月にL G B T Qに関する研修を実施[5回](◎) ② 講師との調整が進まず未実施。次年度に検討(△)
	3. 地域との連携と支援の充実	(1) 地域支援体制の充実 支援相談部を中心に域内の幼保小中高等学校からの支援相談を実施し、センター的機能を発揮する。 ① 支援教育講座を開催し地域への情報提供を行う。 ② 小中学校等のコーディネーターとの交流会を開催する。 ③ 交流および共同学習を計画的・組織的に実施する。 ④ 大阪府立わかば高等学校との交流会を開催する。	(1) ① ニーズに合わせて内容を精選し、支援教育講座を開催(オンライン含む)3回[7回] ② 交流会開催(オンラインを含む)1回[1回] ③ 交流に関する校内情報交換会の実施3回[0回] ④ 大阪府立わかば高校との交流会の実施1回[1回]	① 7月に3回実施した(○) ② 12月に1回実施した(○) ③ 11月に交流学習委員会を実施1月と2月に実施(○) ④ 12月にわかば高等学校との交流学習を1回実施(○)
		(2) 校内支援体制の充実 支援相談部を中心として、福祉医療人材の活用を進める。支援相談(精神科医師)の時間を設けて、保護者と本人への支援を進める。 ① 姿勢保持や歩行に課題のある児童生徒、摂食時に工夫を要する児童生徒などの例を挙げて福祉医療外部人材への相談会と研修講座を実施し、個別の支援計画の記述及び、支援に生かす。 ② 精神面での不安を抱える児童生徒からの相談や保護者への支援を進める。	(2) ① 福祉医療人材(PT・OT・ST)による個別相談の実施 各4回[各4回] 臨床心理士10回[9回] 上記の福祉医療人材による専門性向上研修会を実施3回[2回] ② 支援相談(児童精神科医師：精神科校医とは別に)による面談を設けて精神医療面でのケアを進める。6回[6回]	① PT5回、OT4回、ST4回、臨床心理士9回の個別相談を実施 研修会については、1月に2回実施(△) ② 専門医による相談を1月までに4回(11ケース)実施した(○)

府立生野支援学校

	<p>4. 新校舎設立に向けた挑戦</p>	<p>(1) 新校舎をどのようなイメージの学校にしていくか。</p> <p>① 令和5年度は新校舎の基本設計が行われる。基本設計は本庁において実施されるが、新校舎設立 PT をつくり、基本設計に反映させられるよう働きかけていく。 「コンセプトづくり」「地域との連携」等</p> <p>(2) 具体的な準備について</p> <p>① 引っ越し作業などにそなえ、文書の整理を進める。現年度分の文書の整理を呼びかけるとともに、過年度の文書についてもできる限り準備を進める。</p>	<p>(1)</p> <p>① 新校舎設立 PT を開催し意見をまとめる 2回 [1回]</p> <p>(2)</p> <p>① 文書の整理についての校内研修を実施する。1回以上 [0回]</p>	<p>① 校外 WG 会議（わかば高校、支援教育課、高等学校課との合同会議）3回、校内 PT 会議（支援教育課、公共建築室、設計事務所）との合同会議3回、その他各教科から意見聴取し、要望の整理会議3回 (◎)</p> <p>① 事務文書に関する研修と、生野支援学校としての文書の起案や文書保存のルールに関する研修を行った[2回] (◎)</p>
		<p>(3) 先進校等取組み事例の収集</p> <p>① 全国の先進事例を研究し、新校舎設立の参考とする。そのことにより、取組みのメリットデメリットも考察できる。</p> <p>(4) 地元説明会への参加</p> <p>① 地元説明会に参加し、地元住民等の意見について把握を進める。</p>	<p>(3)</p> <p>① 先進的な支援学校を視察するなど研究を進める。1回以上 [0回]</p> <p>(4)</p> <p>① 地元説明会に積極的に参加する。1回 [1回]</p>	<p>① 9月に神戸市立灘さくら支援、11月に和泉支援、12月に泉南支援を視察し情報収集した[3回] (◎)</p> <p>① 地元説明会への参加[3回]主にバスコースとデイサービス車両に関する意見聴取をした (○)</p>
<p>2、児童生徒の健康を守り豊かな学びを支える学校生活の創造</p>	<p>1. 授業の進め方を研究し授業を活性化する。</p>	<p>(1) ICT環境を充実するとともに、個のニーズに合わせて合理的配慮のある授業を構築する。</p> <p>① 授業へのICTの活用を進めて児童生徒にとって興味を持ちわかりやすい授業とする。</p> <p>② 電子黒板等のICTの活用を一層進める</p> <p>(2) 授業の質の向上及び質の平準化を図る。</p> <p>① 指導案を電子化し、共有管理できるようにする。</p>	<p>(1)</p> <p>① ICTを活用した実践事例を各学部から収集し、事例データ集を作成して校内の教員へ共有する。3学部×3例 [△]</p> <p>② 電子黒板活用の研修実施2回 [0回]</p> <p>(2)</p> <p>① 各学部の指導案（教科問わず）を保存するために校内情報共有のためのフォルダーを準備し、電子媒体で共有する。3学部×3例 [0例]</p>	<p>(1)</p> <p>① クラウドストレージを活用し、教材の収集と共有を行った。[3例] (△) 実践事例の集約が進まず、各学部1事例のみであった。次年度も継続し、データ収集の呼びかけを行う予定。</p> <p>② 夏季休業を利用し、活用方法について研修を行った。それ以後は各学部で授業への活用が進んでいる [2回] (○)</p> <p>(2)</p> <p>① フォルダーを準備し、指導案の情報共有を行った[3学部×3例] (○)</p>

府立生野支援学校

<p>2. キャリア教育を充実し、高等部卒業後の就労に向けた支援を進める。</p>	<p>(1) 社会に開かれた教育課程をつくり、より実践的なキャリア教育推進をめざす</p> <p>① 高等部の各コースの活動内容を精選充実し、学習に必要な物品を購入する。</p> <p>② 校内・校外販売学習と清掃学習（施設内清掃を含む）に取り組む。</p> <p>③ 高等部卒業後の就労率を向上する。</p> <p>④ 中学部からの進路学習の充実。</p> <p>⑤ 全学部の保護者を対象に、進路指導に関する情報共有を事業所等と連携を図りながら実施する。</p> <p>⑥ 高等部教職員を対象に進路支援に関する研修会を実施。</p>	<p>(1)</p> <p>① キャリアアップ、ワーキング、チャレンジ、トライの各コースの学習内容を見直し必要な備品・消耗品等を補充し購入する。</p> <p>② 校内販売1回 [1回] 校外販売1回 [0回]</p> <p>校外清掃3回 [3回]</p> <p>③ 就労率20%を維持する。[R2:7%、R3:10%、R4:20%]</p> <p>④ 中学部段階での校外の体験実習の実施5件[5件]</p> <p>⑤ 進路説明会1回 [1回] 事業所見学会2回 [2回] 座談会1回 [0回] 個別の情報提供 (適宜)</p> <p>⑥ 進路研修会2回 [2回]</p>	<p>① 高等部2年生トライコースとチャレンジコースの生徒対象に福祉サービス事業所との協働授業を10月に1回実施。キャリアアップコースでの校外学習を13回実施。ワーキングコースの授業で必要な備品・消耗品を購入した (○)</p> <p>② 校内販売: 1回 (○) 校外販売: 巽東ふれあい祭りにキャリアアップコースの生徒が制作した商品を販売した (1回) (○) 校外清掃: 校内実習で学校周辺の清掃活動を1回実施。ワーキングコース (環境班) 通学路の清掃活動を2回実施 (○)</p> <p>③ 就労率向上は未達成6% (△)</p> <p>④ 6月に企業への体験実習を5件実施 (○)</p> <p>⑤ 5月に進路説明会を実施 (○) 事業所見学会を6月と1月に実施 (○) 11月にPTA主催の進路座談会を実施 (○) 個別の情報提供は日々の連絡帳や懇談会で実施 (○)</p> <p>⑥ 教職員進路研修として「福祉サービス制度について」「相談支援事業所との学習会」を実施。2回 (○)</p>
---	---	--	--

府立生野支援学校

	<p>3. 感染症防止対策及び食物アレルギー、医療的ケアの体制を充実させ健康で安全な学校生活の支援を進める。</p>	<p>(1) 食の安全を守り、アレルギー対策の徹底を図る。</p> <p>① 感染症防止対策を徹底する。</p> <p>② 食物アレルギー事故防止対策を徹底する。</p> <p>(2) 食育の推進</p> <p>① 学校全体で食育を推進する体制を整備する。</p> <p>② 保護者へは給食だより等で情報を発信し、学校給食への理解を深めていく。</p> <p>③ 給食試食会を設けて学校給食への理解を深めていく。</p> <p>④ 児童生徒へは食育の授業を進めて食への関心を高める。児童生徒が献立を作成したり、野菜の下処理等に参加する。</p> <p>⑤ 給食委員会の活動を進める。</p> <p>(3) 健康で安全な学校生活を送り体力の向上に努める。</p> <p>① 医療的ケア体制を充実し教職員も看護師と連携して医療的ケアを受け持つことができる体制を構築する。</p>	<p>(1)</p> <p>① 手洗いと消毒の呼びかけを継続し、感染防止マニュアルの改訂を進める。1回[1回]</p> <p>② アレルギー対策委員会を3回[2回]開催し、給食時及び校外学習時の安全対策を進める。外食時の店舗から食品成分表の取り寄せを確実にする。80%[△]</p> <p>(2)</p> <p>① 食育推進委員会開催3回[1回]</p> <p>② 給食だより発行11回[11回] 給食の写真をHPに掲載する3回[0回]</p> <p>③ 給食試食会実施2回[1回]</p> <p>④ 野菜の下処理等の学習に参加する学習グループ数を増やす13グループ[10グループ] 献立作成に参加する学習グループ数を増やす3グループ[2グループ]</p> <p>⑤ 給食時間の放送やポスター作り等に参加する件数を増やす4件[3件]</p> <p>(3)</p> <p>① 医療的ケアを実施できる教員を増やすため研修受講者を3人選出する[3人]</p>	<p>① 5類移行に伴いマニュアルの一部見直しを図った。引き続き、手洗いの徹底と消毒の呼びかけを継続して行った[1回](○)</p> <p>② アレルギー対策委員会3回実施。給食時及び校外学習時のアレルギー対策の徹底を図り、外食時の店舗から食品成分表の取り寄せを行った。90%(◎)</p> <p>① 食育推進委員会3回実施。各学部の委員と共に各学部・学年の食育推進体制を構築できた(○)</p> <p>② 校内で取り組んだ内容を掲載した給食だよりを11回発行(◎) 献立表だけでなく、給食の写真をHPに掲載した4回(◎)</p> <p>③ 10月に給食試食会実施。行事の調整が進まず1回のみ実施[1回](△)</p> <p>④ 野菜の下処理等の学習に14グループが参加した(◎) 献立作成に参加した学習グループは5グループで、小学部6年生が献立コンテストに応募した(◎)</p> <p>⑤ 給食時間中に流す映像出演や学校給食週間中の放送、アンケートの集計結果をポスターにした4件(○) いくのしえんあじつけのりのパッケージの絵コンテストの応募者は200人であった</p> <p>① 3人の研修が終了した。看護師による最終の見極めを年度末までに行う予定(○)</p>
<p>3、働き方改革の観点から教職員の健康管理に取り組む</p>	<p>1. 各業務の見直しを行い、教職員の業務負担軽減を図る。</p>	<p>(1) 教職員の業務削減を進める。</p> <p>① ICT機器の活用を進めて会議効率化を図り、会議時間の短縮を進める。</p> <p>② 会議等の資料のデジタル化を進め、教職員の印刷業務の軽減を図る。</p> <p>③ デジタルノートアプリの活用により朝の職員連絡会の配布資料のデジタル化を図る。</p> <p>④ 教員の消毒作業や印刷作業の削減を図る。</p> <p>⑤ 欠席連絡受付業務の削減をする。</p> <p>⑥ 会議(学校内会議)については、会議時間の短縮を進める。</p>	<p>(1)</p> <p>① 職員会議のWEB開催10回[10回]を継続し、資料のデジタル化を定着する。</p> <p>② 部会、学年会、分掌会議を含めて紙媒体での資料配布を削減し、会議全体として電子配布85%以上をめざす。</p> <p>③ 朝の職員連絡会の紙媒体の配布資料削減を継続する。85%[80%]</p> <p>④ SSSや学習支援員を活用し、校内の消毒作業に加えて新たに印刷業務を委託する。</p> <p>⑤ フォーム作成ツールを活用し電話による欠席連絡の受付量を削減する70%[60%]</p> <p>⑥ 会議にあたっては、目的、進め方などを事前に明確にするよう効率化のための準備を行い、1時間以内に制限する。</p>	<p>(1)</p> <p>① 職員会議のWEB開催を継続し、資料のデジタル化を行った[10回](○)</p> <p>② 職員室で開催する会議に関しては、紙媒体での資料配布を削減した[40%](△)</p> <p>③ デジタルノートアプリやコミュニケーションソフトウェアなどのサービスを活用し、資料削減を行った[85%](○)</p> <p>④ SSSに職員室内の個人用連絡棚への資料配布業務を委託し、教職員としての業務削減を行うことができた(◎)</p> <p>⑤ 在籍児童生徒について、フォーム作成ツールを活用し、電話受付量を削減した。また教職員の休暇連絡でも同様の仕組みを構築し、電話での受付量を大幅に削減した[75%](◎)</p> <p>⑥ 会議にあたっての終了時間を事前に示すことで、概ねすべての定例の会議が時間内に行うことができている(○)</p>

府立生野支援学校

<p>2. 健康を維持し働くことの楽しさや充実感を感じられる職場環境を構築する。</p>	<p>(1) 時間外勤務の縮減</p> <p>① 月に1回「ゆとりの日」を設けて17時に退勤できるようにする。</p> <p>② 毎週水曜日に「定時退庁日」を設けて17時には全員が退勤できるように、安全衛生委員会から定時退庁を呼びかける。</p> <p>③ 会議方法の見直しをする。</p> <p>④ 朝の職員連絡会の内容を精選する。</p> <p>(2) 校務分掌体制の見直しを進めて教職員の業務分担の平準化を進める。</p> <p>① 校務分掌検討委員会を開催し、各分掌における業務内容の見直しを図る。</p> <p>② 各種委員会の出席者の精選を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>① 時間外勤務45時間越えの者0%を維持する</p> <p>② 「定時退庁日」の朝の連絡会で、呼びかけとチャイムを使用し退勤の促進を毎週行う。</p> <p>③ 企画運営委員会等の開催方法等を検討し、授業時間内開催を検討する。</p> <p>④ 朝の連絡会の時間を5分以内にする。</p> <p>(2)</p> <p>① 校務分掌検討委員会の実施回数を継続する3回[3回]</p> <p>② 委員会出席者を精選し、参加者人数の10%減をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>① 45時間越えの者が4.6%おり、目標は達成できていないが、下記の取り組み等により、時間外勤務者の月あたりの人数は減少している(△)</p> <p>② 教職員一斉退庁日として、保護者への理解を促しつつ、職員への呼びかけ等を行った(○)</p> <p>③ 企画運営委員会や校務分掌検討委員会・予算委員会を授業時間内に年3回開催した(◎)</p> <p>④ 朝の連絡会は、時間のかかった日でも4分を超えることはなく、朝の時間での児童生徒迎え入れ準備等の時間に充てることができた(◎)</p> <p>(2)</p> <p>① 実施回数は3回(○)</p> <p>② 半数にわたる委員会の出席者の精選を行った。参加者人数としては約10%減達成(○)</p>
--	---	--	---